

Annual
Activity
Report
2022.4-2023.3



Orangutan
Research Center

NPO法人日本オランウータン・リサーチセンター

2022年度活動報告



Danum 11歳 メス (2023年1月9日ダナムバレイで撮影)

おらけんレポート第7号

会員の皆さまへ 代表 黒鳥英俊からのご挨拶



(台湾・高雄動物園にて)

活動支援のお礼とご挨拶

日本オランウータン・リサーチセンター(おらけん)が特定非営利活動法人(NPO)として活動をはじめから早いもので5年目に入ります。私たちも設立後、すぐに新型コロナの影響を受けしばらく現地での活動が制限されておりましたが、その間応援してくださる皆様のために国内でのオンライン配信を中心に情報提供に努めてまいりました。

そしてこの5月から国外への渡航規制もゆるくなってきたことから再度生息地のオランウータンの研究や保全を進め、その成果を報告し、さらに減少を続ける国内の動物園のオランウータンへの飼育研究面でのサポートをしていく決意であります。

ここにこの間ご支援いただきました皆さまにあらためて感謝申し上げます。

NPO法人日本オランウータン・リサーチセンターの年間報告書「おらけんレポート7号」をお届けします。本号では、2022年4月から2023年3月までの最新の活動状況をお知らせします。

2004年 ダナムバレイでの調査開始

2016年 任意団体設立

2019年6月 NPO法人認定

活動の目的・内容

活動目的:

ボルネオ島とスマトラ島に生息する野生のオランウータンおよび国内の動物園で飼育されているオランウータンを主な対象として、行動や生態、生息環境等に関する学術的基礎研究を振興する事業を行う。

研究支援活動を通じて、絶滅に瀕するオランウータンの保全に貢献するとともに、オランウータンとその生息環境に関する研究成果を一般に普及啓発する事業を実施することで、オランウータンの魅力と現状を伝え、人と自然の持続可能な環境社会づくりに寄与することを目的とする。



2022年度 主な活動成果 《ダナムバレイ 調査報告》

■ ■ ダナムバレイ保護区での研究活動

ボルネオ島マレーシア領サバ州にあるダナムバレイ保護区には、約500頭のボルネオオランウータンが生息しています。当NPOの理事である研究者たちは、2004年から2022年までの間、京都大学のプロジェクトとして、この地域で野生オランウータンの研究活動を続けてきました。

2019年度末から始まった新型コロナウイルス感染症の影響により、私たち研究者は、2020-2021年度の間、マレーシアに渡航できませんでした。また、マレーシアで行われた長期的なロックダウンや予算削減のために、現地の調査体制も縮小せざるを得ませんでした。この2年間は、現地シニア・アシスタント1名のみが生息密度と果実量の調査を行いながら活動を続けてきました。本来のオランウータンの追跡調査では、オランウータンを見失わずに追跡するために、2-3名の調査員が必要です。私たちは、数名のアシスタントを雇用し続けることができず、追跡調査を断念していました。そのために、これまでオランウータン定住個体たちの成長過程を18年間もモニタリングし続けてきたのですが、この2年間の空白によって、オランウータンがどこでどのように生活しているのか、すっかりわからなくなっていました。

そのような状況の中、2022年4月頃より、新型コロナ感染症は世界的に収束し始め、海外への移動が緩和されるようになりました。私たちは、ダナムバレイでの調査を再開するために、調査体制を整え始めました。

2022年5月、私たちは新しいジュニア・アシスタント1名を雇用し(Heyry Jon Gabriel Pondey氏、写真上)、オランウータン調査の新人研修を始めました。幸いなことに、新しいアシスタントはとてものみ込みがはやく熱心だったので、比較的すぐに本格的な調査活動に移ることができました。これで、現地アシスタントが2名になり、オランウータンを探索・追跡できるようになりました。

2022年6月以降、NPO所属の日本人研究者たちが、約2年ぶりにダナムバレイ保護区に渡航しました。久しぶりに、マレーシア人の友人や調査地の関係者、シニア・アシスタントや新人のジュニア・アシスタントに会い、再会を喜び合いました。

そして、私たちは、調査環境を整える作業に取り掛かりました。まずは、調査地のトレイルや、フェノロジー区画の修繕・整備を行いました。合わせて、新しいアシスタントにオランウータンのデータの記録方法などを教えながら、少しずつ調査環境を整えていきました。

サバ州では、8月には新規感染者が一時的に増加したり、9月には調査地にゾウの大きな群れが横断したために調査を中断したりなどのトラブルがありました。しかし、現在は順調に調査体制を維持することができています。その後、新人アシスタントは8月には研修期間を終えて正式なアシスタントになり、今や有力なアシスタントに育ちつつあります。



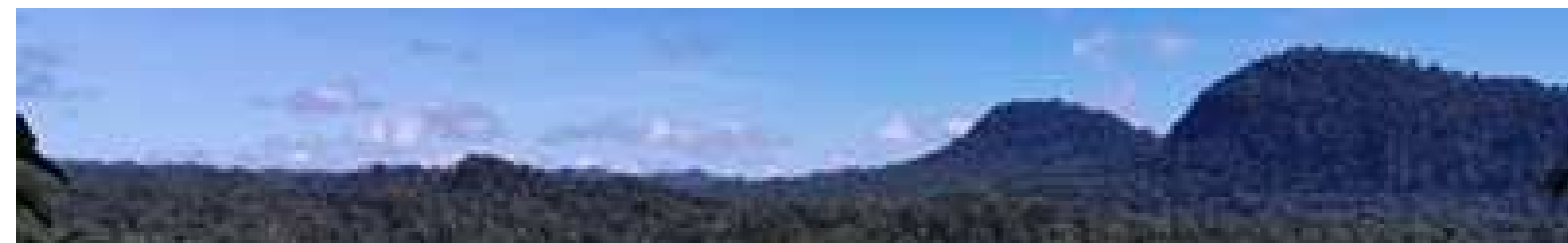
新人アシスタントのGabriel



データの記録方法を教わる
Gabriel



オランウータンを観察する
研究者とアシスタント



2022年度 主な活動成果 《ダナムバレイ 調査報告》



すっかり成人したKhai



やや老けたような印象のGotenz



次世代のオス、Son

■ オランウータンの様子

私たちは調査体制や調査環境を整える作業と並行して、2年間観察できていなかったオランウータンを探し始めました。そして、“今、調査地にいる個体は、誰なのか、どこの場所を使い、何を食べ、どうしているのか、近隣者は誰なのか”という情報を、1頭1頭確認していきました。

オランウータンたちは、いつも通り変わらず同じ場所にいる個体もいれば、もう場所を変えてしまったのか、いなくなってしまった個体もいるようでした。そして、新しい個体も入ってきていました。

例えば、2019年まではまだまだ幼いコドモだと思って観察していた個体も、すっかり成人の顔つき・体格になっていました。あるいは、若者から大人へと移行しつつあると思っていたフランジオスが、やや老けた顔になっていたということもありました。

2019年以降からモニタリングしていたSonというフランジオスは、以前は様子見のように調査地周辺をうろついていた個体だったのに、2022年7月に確認したときには、調査地の中心を頻繁にうろつくオスになっていました。そして、2019年のときによく出現していたAbuというフランジオスは、その姿を見るのがなくなりました。どうやら、このエリアでフランジオスの交代があったようです。

10月には、Amy(母)とChris(コドモ、7歳、オス)という親子に変化がありました。Amyが出産、Chrisが親元を独立するという過程を確認することができました。

それぞれの個体に時間の流れを感じましたが、たいていの個体は人なれ(動物が人に慣れてあまり恐れないこと)が残っており、接近して観察しても特に気にしない様子でした。これは、研究を継続する上でとても重要なポイントです。

12月と1月は、果実量が少ない期間が長く続いたためか、オランウータンを探しても全く見つかりませんでした。これは、一時的に森の食物資源である果樹が少なくなり、オランウータンが果実を求めて遠くへ移動したために起こる現象だと思われます。その後、2月から3月にかけては、果実量が徐々に増加し、オランウータンとの遭遇頻度も少しずつ増えてきています。

2022年度の成果をまとめると、オランウータンの調査を再開した5月から2023年3月末までに、計19頭の野生オランウータンを確認しました。気になる点は、19頭のうち、フランジオスが2頭だったこと、メスに比べてオスの数が少なかったという点です。パンデミック以前は、もっとオスが多く、オスとメスの比率が1:1に近かったように思います。これは、調査の不足によるものなのか、実際にそういう事実が起こっているためなのか、確認するにはまだ長期的な調査が必要です。まだ出会えていない個体も多く、確認できずにわからないままになっていることも多く残っています。

今後も、観察を重ねて、情報を収集していきたいと思えます。

■ 支援金へのお礼

皆さまからお預かりした支援金は、オランウータンの調査活動に伴う現地アシスタントの給与や調査機材の購入などに使わせていただいております。皆さまのご支援のおかげで、現地での調査体制を維持することができています。皆さまのご理解とご支援に、関係者一同、心より感謝を申し上げます。

※この活動は、環境再生保全機構地球環境基金、経団連自然保護基金、自然・歴史環境基金の助成を受けて行われました。

2022年度 主な活動成果 《論文発表》

▼2022年度 学術論文

2022年度は、おらけん理事である蔦谷博士より、ダナムバレイで行った研究成果をまとめた論文が発表されました！

■ 2022年7月 共著論文が出版

Tsutaya T, Wong A, Malim PT, Bernard H, Ogawa NO, Ohkouchi N, Hongo S, Tajima T, Kanamori T, Kuze N (2022) Stable isotopic investigation of the feeding ecology of wild Bornean orangutans. *American Journal of Biological Anthropology*, 179, 276-290.



この論文「安定同位体分析によるボルネオオランウータンの採食生態の検証」は、蔦谷博士により、わかりやすくYouTube動画で紹介されています。

<https://youtu.be/mVjvAWY4BsA>

※詳しい説明はPI2の映像制作をご覧ください



■ 2023年2月 共著論文が出版

Tsutaya T, Mizushima N. (in press). Evolutionary biological perspectives on current social issues of breastfeeding and weaning. *Yearbook of Biological Anthropology*, DOI: 10.1002/ajpa.24710.



2022年度 主な活動成果 《講演・イベント》

▼2022年

■ 4月9日（土）、10（日）

京都市動物園「野生動物学のすすめ2022」
敷地内に設置されたブースで、スタッフがおらけんの活動を来園者に紹介し、オランウータンに関わる書籍やグッズを販売しました。

■ 5月8日（日）13時30分～15時30分

ギャラリーカフェ*Kirin*主催 市民ZOOクロストーク『今ぼくたちが伝えたいこと』
札幌、松戸（千葉）、大阪を結ぶオンラインで開催、松戸から代表の黒鳥が出演しました。

■ 6月10日（金）

2022 理数研究校放課後ゼミ第2回「研究者と環境コンサルタント～オランウータン研究から地球温暖化対策へ～」
久世が東京都立調布北高等学校で講演しました。

■ 6月12日（日）

大牟田市動物園主催 「ライブ配信!オランウータンに会いたい!～会ってどうする?～」
久世がオンラインで講演しました。

■ 8月

小川珈琲主催 「オランウータンの森 絵画コンクール2022」
8月19日の国際オランウータンデーに合わせて小川珈琲が開催、おらけんの理事が公募された絵の審査に加わり、優秀作品は小川珈琲店舗、京都市動物園で展示されました。
2022年のテーマは
「2030年オランウータンの森～考えようSDGs～」

■ 8月28日（日）

おらけんによるオンラインイベント「おらけんバーチャル動物園 日本オランウータン巡り Vol. 4 おうちから日本モンキーセンターの仲間に会いにいこう!」開催
(※詳細は9頁参照)

■ 11月26日（土）、27（日）

於 鹿児島市平川動物公園「第24回SAGAシンポジウム」
27日13時30分から14時30分にかけて、「園内ガイド:飼育担当者と研究者のクロストーク」が行われ、ボルネオオランウータンの「ポピー」の前で、平川動物公園の小村氏とおらけん代表の黒鳥が解説をしました。

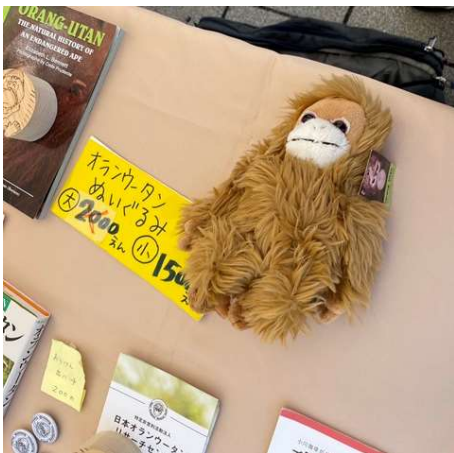
■ 11月22日から12月10日

於 神奈川県立生命の星・地球博物館、3月11日から5月12日 於 大阪市立自然史博物館
奥田達哉写真展「絶滅危惧種～東南アジアの霊長類」開催
おらけんが後援しました。

■ 12月18日（日）

おらけんによるオンラインイベント「おらけんバーチャル動物園 日本オランウータン巡り Vol.5おうちからよこはま動物園ズーラシアの仲間に会いにいこう!」開催

(※詳細は10頁参照)



絶滅危惧種 東南アジアの霊長類

2022年度 主な活動成果 《講演・イベント》

▼2023年

久しぶりにオンラインではない対面でのおらけん主催イベントを開催することが出来ました。

■ 3月25日 (土)

ギャラリーカフェ*Kirin*にて、おらけん主催チャリティイベント
「おらけん田島・黒鳥とアメリカの動物園をかたろう！」

第1部13時～15時、第2部16時～18時

(※詳細は11頁参照)



受付から見た会場の様子

《その他》

■ 1月6日から2月14日

京都のアパレルブランドJAMMINとおらけんのコラボ企画、期間限定特集
「絶滅危惧種を守ろう！」にて、他3団体とともにチャリティグッズの再販に
協力しました。

■ 1月21日 (土)

第7回公開シンポジウム「トランスカルチャー状況下における顔身体構築」に
招待され、「野生の仮面—社会的相互作用によって変化するオランウータン
学の顔」という題で田島が講演しました。

■ 3月4日 (土)

ボルネオ保全トラスト・ジャパン主催オンライン講演会
「ボルネオカフェZoomトーク」
おらけん代表の黒鳥がオンラインで講演しました。

2022年度 メール マガジン

「おらけんマガジン」発行

▽2022年

4月28日、6月1日、6月28日、7月23日、7月26日、7月28日、8月13日、
8月25日、9月24日、10月26日、11月25日、12月13日、12月26日

▽2023年

1月30日、2月26日、3月15日

(通巻57号より72号を配信)

2022年度 主な活動成果 《書籍・メディア》



■ 5月22日(日)「国際生物多様性の日」に発行の東京新聞に、当団体が助成を受けている地球環境基金の広告として、おらけんの写真が掲載されました。

■ 7月10日 東京外国語大学出版会が発行する「フィールドプラス」No. 28に田島が執筆した「ひとり」はどうしてさみしいのだろうか」が掲載されました。

■ ラジオ放送 FMヨコハマ「FutureScape」
代表の黒鳥が小山薫堂の番組に出演しました。
放送日:2022年7月23日(土) 午前9時から11時(黒鳥の出演は午前10時から10時半頃)

■ NHK BS4K ワイルドライフ「マレーシア ボルネオ島 オランウータン 斉開花の森に集う」
2019年放映のドキュメンタリーが3回再放映されました。
放送日:2022年8月8日(月) 午後8時から9時、8月15日(月) 午前8時から9時、8月23日(火) 午後3時から4時

■ NHK Eテレ「はなしちゃお!〜性と生の学問〜」
オランウータン研究者の久世が出演しました。
放送日:2022年8月19日(金) 午後10時30分より
再放送日:2022年8月27日(土) 午前0時30分より

■ ママライフをもっと楽しむための応援マガジン「クルール」に、久世のインタビュー記事が掲載され、9月22日にインターネットで配信されました。

■ ラジオ放送 J-WAVE 「JAM THE PLANET」に、デンマーク在住でオランウータン研究者の蔦谷が出演しました。
放送日:2022年10月19日(水) 19時から(蔦谷の出演は20時20分頃)

■ NHKのサイト「NHK ラーニング」と「NHK for School」で、ワイルドライフ「マレーシア ボルネオ島 オランウータン 斉開花の森に集う」がコンパクトに再編集されて公開されました。

■ NHK Eテレ なりきり!おーにゃん生きもの学園「森にすむ人間? “オランウータン”になりきり」を、オランウータン研究者の田島が監修しました。
放送日:2023年2月4日(土) 午前7時20分から45分まで

■ サラヤ株式会社 いのちをつなぐ学校「専門家に聞いてみた!」
前編・後編
代表の黒鳥のインタビューがインターネットで配信されました。

■ The News Lens Japan 「黒鳥英俊の動物万歳!」
代表黒鳥の連載記事がインターネットで配信されました。

■ 生態人類学は挑むSESSOIN5
『関わる・認める』河合香史編
第2部第2章『群れない類人猿 オランウータンの関わり合いから見える「集まらない」社会性』を、田島が執筆しました。
発行 京都大学学術出版会
発行日2022年2月
税込価格 3850円
A5並製 350頁
ISBN9784814003853

2022年度 主な活動成果 《おらけん バーチャル動物園 ～日本オランウータン巡り④～ 日本モンキーセンター》

■ 2022年8月28日(日) 12時00分～14時30分

■ コロナ禍で動物園に行きづらい状況でも、動物園のオランウータンのくらしや、動物園が彼らのために行っている取り組みなどを紹介したいという思いから立ち上げた企画の第4弾です

第4回目は愛知県犬山市の日本モンキーセンターのご協力のもと、全国の参加者をZoomウェビナーでつないで実施しました。

■ 過去最高の193名の方がお申し込みくださいました。

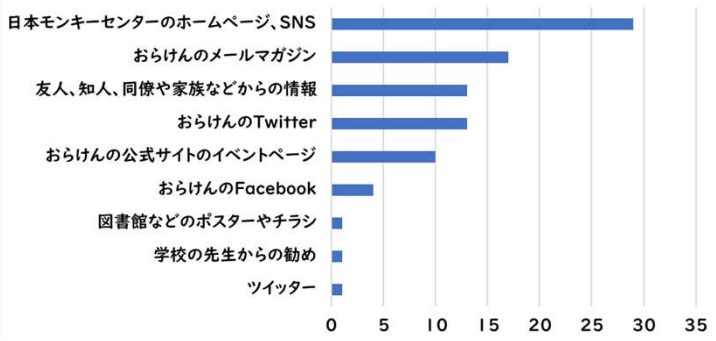
■ 日本モンキーセンターからは、附属動物園部長・綿貫氏から「日本のオランウータン飼育史」、キュレーター・新宅氏から「オランウータンの頭骨の観察」をテーマにした講演をしていただきました。

予定時間を大幅に超えてイベントにお付き合いくださったご参加者の皆様、日本モンキーセンターの皆様に心より御礼申し上げます。

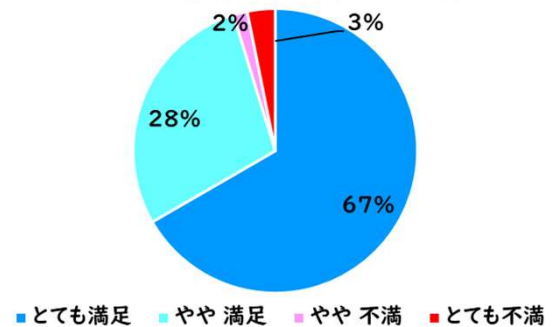
〈当日のプログラム〉

1. 日本モンキーセンターバーチャル園内ツアー
2. キュレーター・新宅勇太さんといっしょにオランウータン骨格標本の観察
3. オランウータンの最新研究のご紹介(おらけん研究者・蔦谷)
4. 附属動物園部長・綿貫宏史朗さん特別講演「日本のオランウータン飼育史」
5. 質疑応答

このイベントをどのように知りましたか(複数回答可)[件]



全体的満足度(回答数:63件)

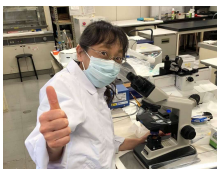


いただいた主なご感想・ご意見(一部編集し、抜粋)

- 前回より長い時間で、内容も充実していました。大変有意義でした。
- 新宅さんの骨の解説は知らない事ばかりでした。綿貫さんのオランウータン飼育史では、見せ物としての動物園から快適に暮らして貰いつつ保護保全するの為の動物園へと変わっていったのがよくわかりました。
- どのお話しも貴重だからこそ、演者を増やすのは配慮した方がよいと思います。

～事後アンケートより振り返り～

■ おらけんバーチャル動物園としては初の「生きたオランウータンが登場しない回」で、加えてかねてより多くのお声が上がっていた「時間が短い」というご意見に伝えるために、モンキーセンターの皆様の協力を得てほぼ時間無制限で質疑応答に対応しました。参加者のうち100名以上の方が14時30分の終了までお付き合いくださったようで、多くの方にご興味をもてただけたことは大変嬉しく感じます。



中村(総合統括)

サブタイトル(日本オランウータン巡り)にもあるように、日本中のオランウータンに会いに行こうと始めた企画ですが…4回目にして、現在はオランウータンを飼育していない動物園に範囲を広げてしまいました。公益財団法人日本モンキーセンターの方々には私は日頃から連携研究などで大変お世話になっており、その素晴らしさは十分に存じ上げております。そこで、非常に面白い企画になるだろうと確信し、この企画にご協力いただいたのですが、想像以上に興味深く貴重なお話を伺うことができ大変感謝しております。

今後何年かかるか分かりませんが、日本中のオランウータンに会いに行く所存でございますので、引き続き応援のほどよろしくお願い申し上げます。

2022年12月18日(日) 12時00分～13時00分

2022年度 主な活動成果

《おらけん バーチャル動物園 ～日本オランウータン巡り⑤～ よこはま動物園ズーラ シア》

■2022年度は計2回のバーチャル動物園イベントを開催できました。

通算5回目は横浜市にあるよこはま動物園ズーラシアの協力のもと、全国の参加者をYouTubeで実施しました。

過去のバーチャル動物園はZoomおよびZoomウェビナーを使用して配信していましたが、今回は初の試みとしてYouTubeを通じて配信しました。

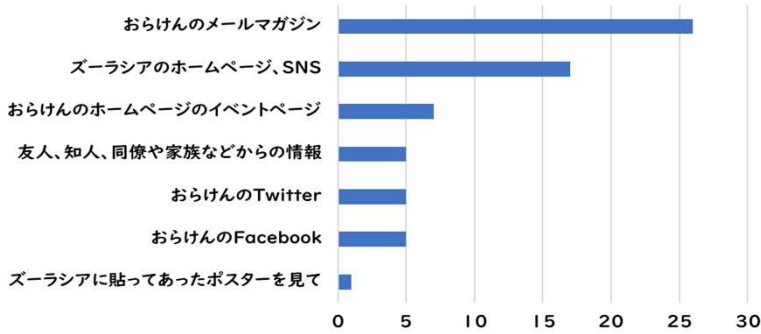
■166名の方がお申し込みくださいました。

■よこはま動物園ズーラシアからは、飼育展示係・平賀氏、事業推進係・久保田氏に当日のLIVEおよび録画動画でご出演いただいたほか、多くの職員の皆様に多大なご協力をいただきました。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

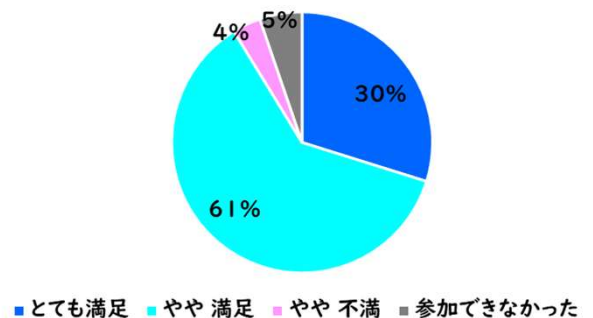
〈当日のプログラム〉

1. バーチャル園内ツアー「ズーラシアで暮らすモンキーたちに会いに行こう！」
2. ズーラシアで暮らすボルネオオランウータン「ロビン」と「バレンタイン」の紹介
3. おらけんミニ講義「オランウータンにキシリトールで予防歯科」
4. 質疑応答

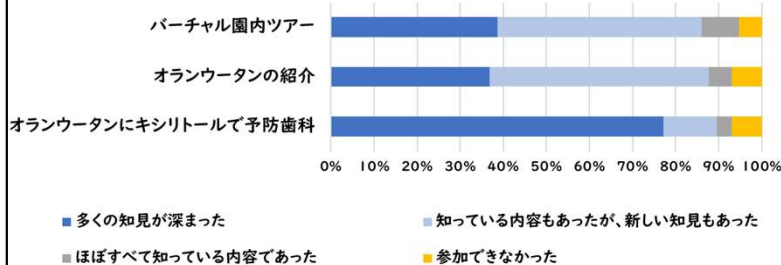
このイベントをどのように知りましたか(複数回答可) [件]



全体満足度(回答数:57件)



コーナーの内容について教えてください。[%]



いただいた主なご感想・ご意見(一部編集し、抜粋)

- 12時ではなく、午前か午後かに寄せていただけると1日の使い道が変わります。
- いろいろとオランウータンについて学ぶことができて良かったです。ただ、時間については物足りなかったです。
- ライブ中継のカメラの画質が悪いことと、配信が頻繁に途切れたことが残念でした。

※申込者全員にアンケートを送付のため、参加できなかった方も回答

～事後アンケートより振り返り～

■アンケートご回答者のうち90%以上の方が「やや満足」または「満足」を選択していただき、スタッフとしては嬉しい限りでした。「やや不満」以下でお答えいただいた方は動画の動きが途中で止まってしまったことなどをコメントされており、今回初めてYouTube配信にしたことと関係があるかもしれません。Zoomウェビナーは有料契約が必要なことなどもあり、様々な配信方法を検討中です。より多くの皆様にとって快適な配信方法を引き続き模索してまいります。



辻本(システム担当)

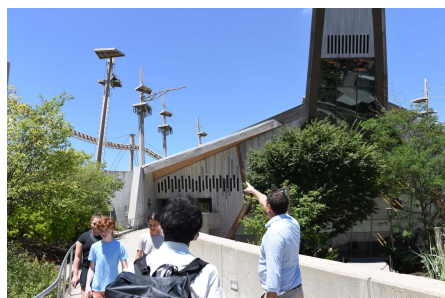
今回より開催方法をZoomからYouTubeに変更しました。また配信にはOBS Studioを使用しました。OBS Studioはある程度パソコンのスペックが必要ですが、コンテンツ動画やライブ動画、テロップの挿入を直感的に編集できるのがメリットです。YouTubeはZoomのように共同ホストという仕組みがなく、複数で運営したり、双方向性に欠けたりするのがデメリットでした。OBS StudioはZoomにも使用できるので、今後はOBS Studioを利用しつつ、ZoomとYouTubeのハイブリット開催を実施したいですね。

2022年度 主な活動成果 《メル マガ&ホームページ& チャリティイベント》

■ ■ おらけん田島の『アメリカ・オランウータン探訪記』
2022年にコロナ禍の明けたアメリカへ研究留学したオランウータン研究者の田島が、訪れたアメリカの動物園のレポートをメルマガに連載し、写真を加えてウェブサイトにも掲載をしました。

【掲載内容】

- 第1弾 ワシントン州シアトル・ウッドランドパーク動物園
- 第2弾 オレゴン州ポートランド・オレゴン動物園
- 第3弾 インディアナ州・インディアナポリス動物園
- 第4弾 カリフォルニア州・サンディエゴ動物園
- 番外編 ニューヨーク州・ブロンクス動物園



2023年3月には、メルマガで紹介しきれなかった内容とこぼれ話をチャリティトークイベントでお話しました。当日の参加費は、ダナムバレイ自然保護区での野生オランウータン調査の継続費用にあてました。

トークイベント「おらけん田島・黒鳥とアメリカの動物園をかたろう！」
日時：3月25日（土）
場所：Gallerycafe*Kirin*（大阪市浪速区恵美須東2-3-17）

第1部 13:00-15:00 西海岸編

- ・シアトルとオレゴン動物園
- ・サンディエゴ動物園

第2部 16:00-18:00 ニューヨーク、中西部編

- ・インディアナポリス動物園と多摩動物公園の共通点
- ・ブロンクス動物園のオカピとマンドリル



トークイベントでは、田島が2022年に訪問した米国の動物園の話を、黒鳥はオランウータンをはじめとした大型類人猿の飼育経験の話を中心に写真を見せながらお話しました。



ゲストとして本田公夫さん（元ブロンクス動物園展示グラフィックアーツ部門スタジオマネージャー）が映像で出演してくださいました。本田さんからは、アメリカの動物園園長が果たす役割から日本の動物園が抱える課題まで、現場の方でしか知りえない貴重なお話をうかがいました。

会場にお越しになった方々からは、日米間の動物園の違いや、理想の動物園展示の在り方まで、様々な質問をお寄せいただき、田島と黒鳥でお答えしました。



2022年度 主な活動成果 《映像制作》

YouTube【公式】おらけん チャンネル開設について

2021年の夏より、多くの方にオランウータンについて、またおらけんの活動を知っていただくため、オンラインでの情報発信に力を入れています。ダナムバレイの野生オランウータン調査や研究の動画、おらけんイベントのアーカイブ動画、スマトラ島に生息するオランウータン情報の動画などを配信しています。

「ダナムバレイ保護区、野生オランウータンのプロジェクト」公開

第3話 「オランウータンを探す」

実は、野生オランウータンの調査の中で、一番難しいことは、広大な森林の中にいるオランウータンを探し出すことです。オランウータンは樹上で、単独で生活しているため、その姿を見つけ出すのはとても難しいのです。今回の動画では、私たち日本オランウータン・リサーチセンターの研究チームが、マレーシアの広大な原生林で「どうやってオランウータンを探すのか」をご紹介します。

<https://youtu.be/AGWYh3qVS2g>



※この動画は英語版でも配信しています。

In search of orangutans <https://youtu.be/l9PPc29gbjg>

「野生オランウータンの最新研究～野生オランウータンの食性と同位体分析の最新研究」公開

ボルネオ島ダナムバレイの野生オランウータンたちの食事内容を調べた研究の論文が発表されました。執筆者の蔦谷から、わかりやすく紹介した動画です。後半はインタビューもあります！

論文紹介（論文のリンクも貼ってあります）

「安定同位体分析によるボルネオオランウータンの採食生態の検証」

執筆者 蔦谷匠、田島知之、金森朝子、久世濃子ほか

<https://youtu.be/mVjvAWY4BsA>



内藤(進行役)

研究者ではないスタッフの私が驚いたのは、ひとつの研究に必要なサンプル数とそれを集めるのにかかる時間です！（今回の研究でどのくらいの時間がかかったのかは動画をご覧ください）

私たちが当たり前のように図鑑などで知ることができる野生動物の生態には、研究者たちのとんでもない努力が隠されていることを実感しました。逆に言うと、野生動物にはまだまだ人類が知らない秘密がたくさんあるはずです。将来もこうした研究が続けられるよう、引き続き皆様の応援をお願いいたします。

2022年度 主な活動成果 《映像制作》

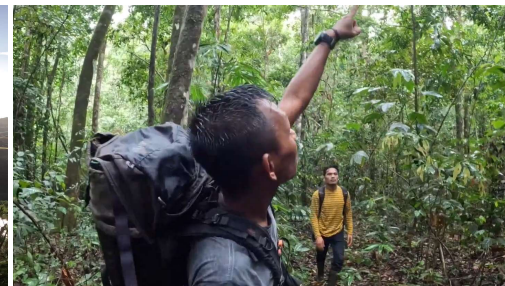
■ スマトラ島のオランウータン動画

●第3弾「2022年スマトラ島・タパヌリ訪問記～野生タパヌリオランウータンの生息地を訪ねて」

2022年5月26日から29日にかけて、インドネシア在住のスタッフ鴻巣がスマトラ島のタパヌリ地方、バタントウルを訪問してきました。2017年に新種と認定されたタパヌリオランウータンが生息する地域です。日本でほとんど紹介されていない雄大な自然をスタッフとともに旅しているような気持ちになることができる動画になっています。

残念ながら野生のタパヌリオランウータンを観察することは出来ませんが、生息地の様子や問題点をスタッフが感じたまま率直に動画にしました。

<https://youtu.be/jWoOy0bAXCI>



●第4弾「OIC～スマトラオランウータンを守る手」公開

OIC (Orangutan Information Center)協力の元、スマトラオランウータンの保全活動等について動画にまとめました。

スマトラの森でいま起きていることを知ることができる内容になっています。

<https://youtu.be/8m8JqA95bV4>



今後も継続して順次動画を配信する予定です。ぜひチャンネル登録をお願いいたします。

YouTube【公式】おらけんチャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCxSfKNt07-qYwB-13uJAZcA>

2022年度 主な活動成果 《映像制作》

■ 2022年12月18日に開催されたオンラインイベント「第5回おらけんバーチャル動物園」内でご覧いただいた動画をYouTubeで公開しています。

1.園内ガイドツアー（約9分半）

よこはま動物園ズーラシアってどんな動物園なのかな？

どんなサルのなかまがいるのかな？

一緒に園内を見てみましょう。

<https://youtu.be/4yBA0PMN64Y>



2.オランウータン紹介（約6分）

よこはま動物園ズーラシアにはどんなオランウータンが暮らしているのかな？

ボルネオオランウータンのバレンタインとロビンについて飼育担当者が解説します。

<https://youtu.be/y5cusI5VHIE>



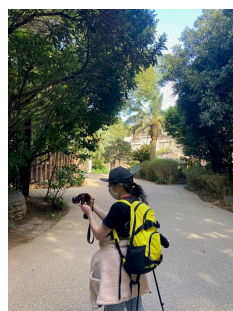
3.オランウータンにキシリトールで予防歯科

おらけんミニレクチャーコーナーです（約7分半）。

動物園では、飼育動物の健康管理のために様々な工夫をしています。よこはま動物園ズーラシアのオランウータンたちはキシリトールタブレットを食べています。

さて、口腔内の細菌数は、どうでしょうか？「細菌カウンタ」で測定する様子を動画で見てみましょう。

<https://youtu.be/iGRPG4ruNm4>



← 撮影中の様子
園内の撮影・編集はおらけんスタッフが
行いました。

2022年度 寄付・会費収支報告

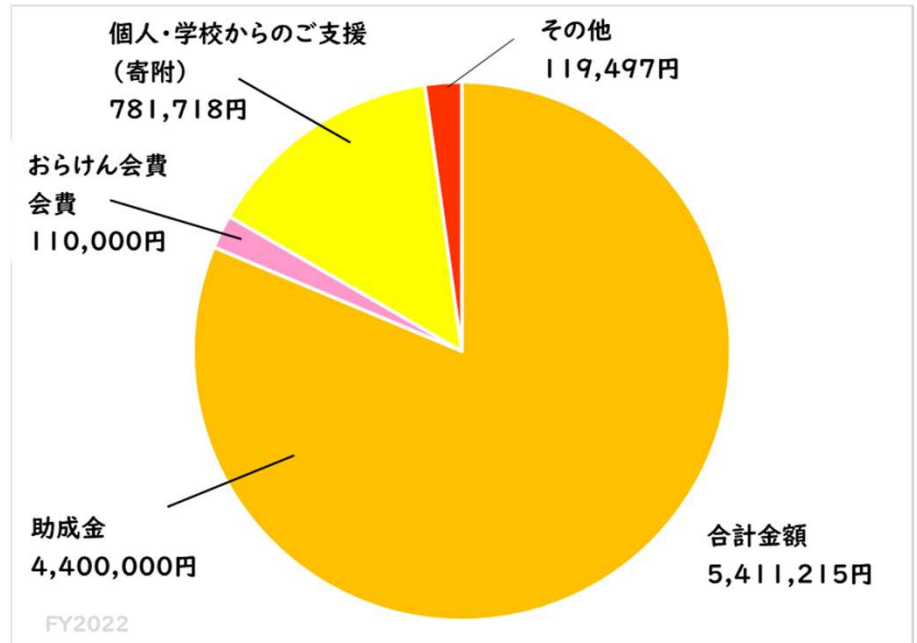


冷凍庫、ヘッドランプ、書籍など

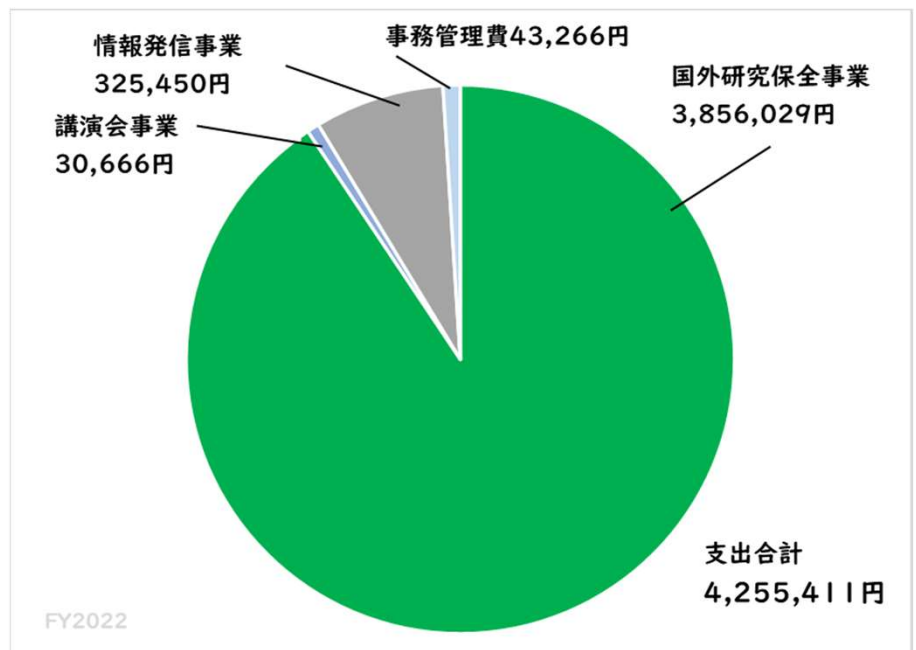
ダナムバレイでの オランウータン調査事業

- ・アシスタントへの給与
- ・アシスタントの食費・消耗品
- ・調査道具などの備品購入
- ・水道・光熱費
- ・地元図書館への学術書寄付など

助成金・寄付・会費・その他の収入 2022.4.1-2023.3.31



活動支出 2022.4.1-2023.3.31



次期繰越額
2,979,690円

2022年度、皆さまからご支援いただいた寄付金は、781,718円でした。ご寄付のおかげでダナムバレイ調査支援を含む活動を、2022年度も継続して行うことができました。ご支援に心より感謝申し上げます。

寄付について

日本オランウータン・リサーチセンターの活動は、皆さまからのご支援で成り立っています。いただいたご支援は野生オランウータンの調査研究（調査助手の人件費、研究道具の購入など）や、講演会の開催への支援等に活用させていただきます。ぜひ会員・サポーターに申し込みいただき、ご支援をお願いします。

下記からご希望の会員/サポーターの種類を選んでください。
寄付サイトCongrantのサイト (<https://congrant.com/project/orangutan/1077>) からアクセスできます。クレジット決済と口座振替からお選びいただけます。

会員になる

- ・賛助会員
会費 6000円/年
※活動理念に賛同し、
団体の活動を応援・支援



寄付をする

- ・都度寄付/1回限り
※任意の金額



- ・マンスリーサポーター(継続寄付)
1000円以上/月
※NPOの活動を、月々少額で
寄付継続的にサポート



金額にかかわらず、ご寄付いただいた皆さまには、下記の特典をご用意しています。

- ・ メールマガジン「おらけんマガジン」の配信（毎月発行）
- ・ 活動報告書を配信（年1回発行）

■年間6000円以上ご支援いただいた方には、おらけん特製エコバックをプレゼントいたします。
(エコバックはなくなり次第、配布を終了させていただきます)



PayPal決済導入



〈2021年10月〉
海外向け寄付システムとして、英語の寄付ページにPayPal
決済を導入しました

Enabled donation through the English page

助成金

2022年度は、以下の助成を受けました。

- ◇ 独立行政法人環境再生保全機構/地球環境基金
- ◇ 公益信託経団連自然保護基金/経団連自然保護協議会
- ◇ 公益信託大成建設/自然・歴史環境基金

編集後記

おらけんレポート第7号を無事に発行いたしました。公式WEBサイト、Facebookページでも随時、最新情報を発信しています。

ぜひブックマークや、「いいね!」のフォローをお願いします!

公式WEBサイト: <http://orangutan-research.jp/>

Facebookページ: <https://www.facebook.com/orangutan.research/>

YouTube公式: <https://www.youtube.com/channel/UCxSfKNt07-qYwB-13uJAZcA>

発行日 2023年5月28日

発行: 特定非営利活動法人 日本オランウータン・リサーチセンター

URL: <http://orangutan-research.jp/>

E-mail: info@orangutan-research.jp

※本ニュースレターの文章・画像等の内容の無断転載及び複製等の行為はご遠慮ください。

【編集担当者より】

▼ページ数は2021年度版より若干少なくなっていますが、内容をご覧いただくと分かるように現地での調査活動、国内での教育普及活動、多数メディアへの出演や監修と、大変幅広い活動を実施することができた1年間でした。ひとえにおらけんの活動にご賛同・ご支援くださっている皆様のおかげです。

やっと「アフターコロナ」が現実となりつつある2023年も、皆様にたくさんのご報告ができるようスタッフ一同邁進してまいります。(内藤)

▼新型コロナウイルスの影響で渡航できなかった研究者が、漸く調査地に戻る事が出来た年となりました。次々と訪問を果たし、現地の様子のご報告が届き、調査地のオランウータンたちも現地スタッフも元気であることがわかってとてもうれしかったです。円安の影響も大きく、調査継続の状況は厳しさを増していますが、2023年度もよろしくご報告申し上げます。(那須)